

教科	福祉	科目	社会福祉基礎		必修・選択の別	必須
単位数	2	履修学年	1	履修学科	福祉科	
使用教科書	実教 社会福祉基礎			副教材等	実教 社会福祉基礎 学習ノート	
分割履修の有無 (学年)		有 (2 学年)		授業形態	一斉 (座学・演習)	

科目の到達目標		
<p>○社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化を踏まえた新しい福祉社会を実践する態度を育成する。</p> <p>○社会福祉の歴史の理解を通して、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。</p> <p>○基本的な対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。</p>		
知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	健全で持続的な社会をめざして自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	社会福祉の理念と意義、歴史を理解し、現代社会における社会福祉の課題解決等のための基礎的知識が習得できた。	社会福祉の理念と意義、歴史を理解し、現代社会における社会福祉の課題解決等のための基礎的知識が十分に習得できた。	社会福祉の理念と意義、歴史を理解し、現代社会における社会福祉の課題解決等のための基礎的知識が習得できた。	社会福祉の理念と意義、歴史を理解し、現代社会における社会福祉の課題解決等のための基礎的知識の習得に努めた。
思考・判断・表現	現在の社会福祉に関する諸問題を身近な問題としてとらえ、学習内容を踏まえた解決方法を考察できた。	現在の社会福祉に関する諸問題を身近な問題としてとらえ、学習内容を踏まえた解決方法を多角的に考察できた。	現在の社会福祉に関する諸問題を身近な問題としてとらえ、学習内容を踏まえた解決方法を考察できた。	現在の社会福祉に関する諸問題を身近な問題として理解し、学習内容を踏まえた解決する姿勢が見られた。
学習主体に組み込む態度	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組む態度を身に付けた。	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち続け、課題解決に向けた方法を探究する態度を身に付けた。	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組む態度を身に付けた。	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組もうと努力した。

提出物	学習プリント、学習ノート、各種課題
評価方法	年4回定期考査(観点別の問題)、小テスト、各種提出物、課題の取り組み状況等を観点別に照らし合わせ総合的に評価
評価割合(%)	知識：技術(50)：思考・判断・表現(30)：主体的に学習に取り組む態度(20)
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格、介護職員初任者研修、社会福祉・介護福祉検定

学習計画		単元名	学習内容	評価方法	備考
前 期	第1回 回 考 査 ま で	第1編 社会福祉の理念と意義 第1章 生活と福祉 第2章 社会福祉の理念	1 少子高齢化と人口減少に向かう 日本 2 産業と地域社会の変化 3 家族と働き方の変化 4 疾病構造の変化 5 人の一生と社会福祉 6 現代の福祉理念 7 日本国憲法と社会福祉 8 地域生活と社会福祉	①知識及び技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価	
	第2回 回 考 査 ま で	第3章 人間の尊厳と新たな福祉 社会の創造 第2編 社会福祉の歴史と次代の 展望 第1章 諸外国における福祉社会	1 人間としての尊厳 2 自立生活支援 3 新たな福祉社会の構築に向けて 1 社会福祉の歴史 2 イギリスにおける社会福祉の発 展 3 アメリカにおける社会福祉の発 展 4 北欧の社会福祉	①知識及び技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価	
後 期	第3回 回 考 査 ま で	第2章 日本における社会福祉	1 近代社会福祉の黎明期 2 社会事業の成立と発展 3 戦時厚生事業による福祉対策 4 戦後対策としての社会福祉の構 築 5 高度経済成長期と社会保障・社 会福祉の拡充 6 新世紀に向けた福祉改革と介護 保険制度の導入 7 子ども・家庭支援のさらなる拡 充を目指して	①知識及び技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価	
	第4回 回 考 査 ま で	第2章 日本における社会福祉 第3編 生活を支える社会福祉 ・社会保障制度 第1章 社会保障制度の意義と役割	1 障害者福祉のさらなる充実をめ ざして 2 次代に向けた新たな社会福祉の 挑戦 1 社会保障制度の意義と役割 2 社会保障の各制度の概要 3 社会保障制度を推進する機関	①知識及び技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価	

準備物及び学習へのアドバイス 等

準備物：教科書、学習ノート、ファイル、タブレット端末

アドバイス：プリント毎に小テストを行いますので、事前に復習をしておく和良好的です。また、利用者の方々の生活を支える上で必要な基本的な知識となります。興味・関心を持って授業に臨んでください。

教科	福祉	科目	生活支援技術		必修・選択の別	必須
単位数	3	履修学年	1	履修学科	福祉科	
使用教科書	実教 生活支援技術			副教材等	自主教材	
分割履修の有無（学年）		有（2・3学年）		授業形態	一斉	

科目の到達目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B：一部は到達できている	C：到達に努力を要する
知識・技能	教科書での学習を基本とした実践的・体験的な学習活動。実践的・体験的な活動を通して、利用者の状態にあった根拠に基づく介護実践を習得。	自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を適切に身に付け実践できる。	自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	自立生活の支援について体系的・系統的に理解しようと努め、関連する技術を身に付けようとしている。
思考・判断・表現	個人ワーク、グループワークに取り組む活動を通して、自ら取り組む課題を発見し、適切な解決方法を考察・まとめ、発信する。	自立生活の支援の展開に関する課題を的確に発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	自立生活の支援の展開に関する課題を発見しようと努め、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。
主体的に取り組む態度	個人ワーク、グループワークに取り組む活動。考えてみよう、編末問題などを実践する活動。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	健全で持続的な社会の構築を目指して学ぶ姿勢が見られ、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

提出物	学習を記録したプリント、課題レポート
評価方法	評価観点別に、年4回の定期考査、小テスト、提出物、レポート等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
評価割合（％）	知識・技術（50） ・ 思考・判断・表現（30） ・ 主体的に学習に取り組む態度（20）
関連する資格・検定	・ 介護福祉士国家試験受験資格 ・ 介護職員初任者研修 ・ 社会福祉介護福祉検定1～3級

学習計画		単元名	学習内容	評価方法	備考
前 期	第1回 回 考 査 ま で	第1編 私たちの暮らしと生活支援 第1章 生活支援の理解	1 生活に視点を置く 2 生活支援の考え方 3 他の職種の役割と協働	①知識・技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、小テスト、課題レポート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習プリント、課題レポート等の総合評価	
	第2回 回 考 査 ま で	第2章 生活支援に向けたアセスメント	1 生活支援におけるアセスメント 2 ICFの視点とアセスメント	①知識・技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、小テスト、課題レポート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習プリント、課題レポート等の総合評価	
後 期	第3回 回 考 査 ま で	第2編 自立に向けた生活支援技術 第1章 居住環境の整備 第2章 家事の介護	1 生活支援における居住環境整備の意義・基本理念 2 安心して快適な生活の場づくり 1 家事の支援の意義と目的 2 家事支援における介護技術	①知識・技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、小テスト、課題レポート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習プリント、課題レポート等の総合評価	
	第4回 回 考 査 ま で	第3章 身じたくの介護 第4章 移動の介護☒ ☒ ☒ ☒ ☒	1 身じたくの意義と目的 2 身じたくにおける介護技術 1 移動の意義と目的 2 移動・移乗における介護技術	①知識・技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、小テスト、課題レポート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習プリント、課題レポート等の総合評価	

準備物及び学習へのアドバイス 等

準備物：教科書、副教材、ファイル、タブレット端末

生活支援技術は、私たちの生活に密接に関わる内容を学習します。自分の生活に置き換えながら、介護技術に必要な根拠となる部分を理解し、介護実践に活かせるように学ぶ姿勢を持ちましょう。

教科	福祉	科目	介護総合演習	必修・選択の別	必須
単位数	1	履修学年	1	履修学科	福祉科
使用教科書	なし			副教材等	中央法規 最新介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」
分割履修の有無(学年)		有(2・3学年)		授業形態	一斉

科目の到達目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を身に付ける。		
知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	地域福祉や福祉社会について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術を関連させながら、介護実習で身に付けた知識や技術を具体的にまとめることができる。	福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術を関連させながら、介護実習で身に付けた知識や技術をまとめることができる。	介護実習で身に付けた知識や技術をまとめることができる。
思考・判断・表現	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。	介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、解決する方法を具体的に述べている。	介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、解決する方法を述べている。	介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を述べている。
主体的に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む。	福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に専門職としての支援の在り方を具体的に述べている。	福祉の見方・考え方を働かせ、主体的に専門職としての支援の在り方を述べている。	福祉の見方・考え方を働かせ、専門職としての支援の在り方を述べている。

提出物	授業振り返りシート、施設実習の振り返りシート(2回)、実習のまとめ
評価方法	授業振り返りシート、施設実習の振り返りシート(2回)、実習のまとめ等を総合的に評価
評価割合(%)	知識・技術：40% 思考・判断・表現：30% 主体的に学習に取り組む態度：30%
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格

学習計画		単元名	学習内容	評価方法	備考
前期	第1回 回 考 査 ま で	介護演習	・介護福祉士養成課程 ・実習Ⅰの目的、意義 ・通所介護、通所リハビリ テーション事前指導	①知識・技能 筆記試験 ②思考・判断・表現 筆記試験、授業振り返りの 記述内容 ③主体的に学習に取り組む態度 授業振り返りの記述内容	考查なし
	第2回 回 考 査 ま で	介護演習	・日誌の書き方 ・介護福祉士倫理綱領 ・入所施設見学 ・通所介護実習振り返り (7/10～夏季休業中7日間)	①知識・技能 筆記試験 ②思考・判断・表現 筆記試験、授業・見学・実 習振り返りの記述内容 ③主体的に学習に取り組む態度 授業・見学・実習振り返り の記述内容	考查なし
後期	第3回 回 考 査 ま で	介護演習	・レクリエーション ・レクリエーション考案 ・通所介護実習振り返り (8/28～9/11)	①知識・技能 筆記試験、レクリエーショ ン考案シート ②思考・判断・表現 筆記試験、授業・実習振り 返りの記述内容 ③主体的に学習に取り組む態度 授業・実習振り返りの記述 内容	考查なし
	第4回 回 考 査 ま で	介護演習 事例研究	・通所介護実習振り返り (10/2～11/6) ・クリスマス交流会の企画、 実践 ・実習のまとめ作成	①知識・技能 レクリエーション考案シー ト、Keynote等のプレゼン テーションアプリの記述内 容等 ②思考・判断・表現 実習・クリスマス交流会振 り返し、Keynote等のプレ ゼンテーションアプリの記 述内容等 ③主体的に学習に取り組む態度 実習・クリスマス交流会振 り返し、Keynote等のプレ ゼンテーションアプリの記 述内容等	考查なし

準備物及び学習へのアドバイス 等

- ①準備物：ファイル、副教材、筆記用具、iPad
- ②「介護実習（校外）」の事前・事後指導（実習に必要な書類・お礼状作成等）を兼ねています。
- ③「介護実習（校外）」と関連付けて指導を行います。
- ④実習のまとめは、事前に学級内で発表会を行い、代表者を選出します。
代表者は、3月の科集会で全学年に向けて発表します。

教科	福祉	科目	介護実習		必修・選択の別	必須
単位数	3	履修学年	1	履修学科	福祉科	
使用教科書	なし			副教材等	自主教材 中央法規 介護技術ハンドブック	
分割履修の有無 (学年)	有 (2・3 学年)		授業形態	一斉		

科目の到達目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、根拠に基づいた介護及び支援を実践するために必要な資質・能力を身に付ける。

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

学習の評価

	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	通所介護又は通所リハビリテーションにおける実習において、サービス利用者主体の生活支援ができるよう、専門的な知識や技術を関連づけて取り組んでいる。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習に意欲的に取り組み、専門的な知識や技術を関連づけながら、サービス利用者に応じた生活支援を実践できた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習に取り組む、専門的な知識や技術を関連づけて介護過程を実践できた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習に取り組んだ。
思考・判断・表現	通所介護又は通所リハビリテーションの実習に意欲的に取り組み、専門的な知識や技術を関連づけながら、サービス利用者主体の介護過程を実践できた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習を通して、学んだ知識と技術を関連させながらサービス利用者主体の介護を実践し、成果と課題を記録することができた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習を通して、学んだ知識と技術を関連させながら実践し、成果と課題を記録することができた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習を通して、学んだ知識と技術を生かして実践し、成果を記録することができた。
主体的に取り組む学習態度	通所介護又は通所リハビリテーションにおいて、自己の課題と向き合い、専門職として必要な支援ができるように取り組んでいる。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習において、自己の課題と向き合い、実習担当職員のアドバイスを生かし、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習において、自己の課題と向き合い、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習において、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。

提出物	実習日誌
評価方法	施設の実習担当職員が、実習に対する取り組み状況等を総合的に評価 A：5点 B：3点 C：2点 D：1点 E：0点
評価割合 (%)	知識・技術：40% 思考・判断・表現：30% 主体的に学習に取り組む態度：30%
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格

学習計画		単元名	学習内容	評価方法	備考
前 期	第1回 考査 まで			①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	
	第2回 考査 まで	介護実習Ⅰ	入所施設見学 6/26（金） 通所介護（通所リハビリ テーション）実習①～⑨ 7/10（金）・17（金） 夏季休業中 7日間	①知識・技能 実習担当職員による評価票 ②思考・判断・表現 実習担当職員による評価票 ③主体的に学習に取り組む態度 実習担当職員による評価票	考査なし
後 期	第3回 考査 まで	介護実習Ⅰ	通所介護（通所リハビリ テーション）実習⑩～⑫ 8/28（金）・9/4（金）・ 11（金）	①知識・技能 実習担当職員による評価票 ②思考・判断・表現 実習担当職員による評価票 ③主体的に学習に取り組む態度 実習担当職員による評価票	考査なし
	第4回 考査 まで	介護実習Ⅰ	通所介護（通所リハビリ テーション）実習⑬～⑰ 10/2（金）9（金）・16 （金）・30（金） 11/6（金）	①知識・技能 実習担当職員による評価票 ②思考・判断・表現 実習担当職員による評価票 ③主体的に学習に取り組む態度 実習担当職員による評価票	考査なし

準備物及び学習へのアドバイス 等

- ①評定は、施設実習の評価を反映させて、第2回考査～第4回考査に出します。
②「介護総合演習」と関連付けて指導を行います。

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	必修・選択の別	必須
単位数	3	履修学年	1	履修学科	福祉科
使用教科書	実教出版 こころとからだの理解		副教材等	最新介護福祉士養成講座 1 1 「こころとからだのしくみ」	
分割履修の有無 (学年)	有 (2・3学年)		授業形態	一斉	

科目の到達目標

- ・ 自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- ・ 自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- ・ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を養う。	より安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察する力を養う。	介護に従事する者として人間の心身に関心をもち、より安全で安楽な介護技術の提供を目指して意欲的に取り組む態度を養う。

学習の評価

	学習活動、指導上の留意点等	A:十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技術	副教材での学習を基本とした実践的・体験的な学習活動。実践的・体験的な活動を通して、利用者の状態にあった根拠に基づく介護実践を習得。	要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身に付けた。また、安全、安楽な介護技術を提供するためには、人間の心身の構造や機能を理解し根拠を基に提供の必要があるということを理解した。	要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身に付けた。また、安全、安楽な介護技術を提供するためには、人間の心身の構造や機能を理解する必要があるということを理解した。	要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身に付けようとした。また、安全、安楽な介護技術を提供するためには、人間の心身の構造や機能を理解する必要があるということを理解しようとした。
思考・判断・表現	個人ワーク、グループワークに取り組む活動を通して、自ら取り組む課題を発見し、適切な解決方法を考察・まとめ、発信する。	安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、他と協力して尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察した。	安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察した。	安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察しようとした。
主体的に学習に取り組む態度	個人ワーク、グループワークに取り組む活動を通して、自ら取り組む課題を発見し、適切な解決方法を考察・まとめ、発信する。	介護及び支援の実践に関する課題を的確に発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて主体的かつ協動的に創造的に解決することができた。	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決した。	介護及び支援の実践に関する課題を発見しようと努め、職業人に求められる倫理観を創造的に解決しようとした。

提出物	学習を記録したプリント、課題レポート
評価方法	評価観点別に、年4回の定期考査、小テスト、提出物、個人・グループワーク等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
評価割合 (%)	知識・技術 (50) ・思考・判断・表現 (30) ・主体的に学習に取り組む態度 (20)
関連する資格・検定	・介護福祉士国家試験受験資格 ・介護職員初任者研修 ・社会福祉介護福祉検定 1～3級

学習計画		単元名	学習内容	評価方法	備考
前 期	第1回 回 考 査 ま で	第1編 ことごとからだの基礎的 理解 第1章 ことごとからの理解	1 現代生活と健康 2 動機付けと欲求 3 自己概念と尊厳 4 学習や思考・感情の仕組み 5 感覚・知識・認識の仕組み 6 社会的行動 7 適応と適応機制 8 ストレス	①知識・技能 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 小テスト、課題レポート等 の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習プリント、課題レポ ート等の総合評価	
	第2回 回 考 査 ま で	第2章 からだのしくみの理解	1 人間の生命の維持・恒常性の仕組み とバイタルサイン 2 国際生活機能分類 3 人体の構造と機能 4 人体各部の名称と機能	①知識・技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、小テスト、課題 レポート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習プリント、課題レポ ート等の総合評価	
後 期	第3回 回 考 査 ま で	第2章 からだのしくみの理解 第2編 生活支援に必要なことごと からだのしくみの理解 第1章 生活動作に関することごと からだのしくみ	5 ボディメカニクス 6 関節可動域 1 身じたくに関することごとからだのしく み 2 移動に関することごとからだのしくみ 3 食事に関することごとからだのしくみ	①知識・技能 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 小テスト、課題レポート等 の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習プリント、課題レポ ート等の総合評価	
	第4回 回 考 査 ま で	第2編 生活支援に必要なことごと からだのしくみの理解 第1章 生活動作に関することごと からだのしくみ	4 入浴・清潔に関することごとからだ のしくみ 5 排泄に関することごとからだのしく み 6 睡眠・休養に関することごとからだ のしくみ	①知識・技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、小テスト、課題 レポート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習プリント、課題レポ ート等の総合評価	

準備物及び学習へのアドバイス 等

準備物：教科書、副教材、ファイル

アドバイス：「ことごとからだの理解」は「生活支援技術」に密接に関わっている。根拠のある介護実践に生かせるように必要な知識をしっかりと学びましょう。